

マイケル・シーゲル教授 略歴・業績

略 歴

- 1947年 3月 2日 オーストラリアに生まれる
- 1966年 2月 神言修道会修練院（オーストラリア）終了
- 1968年 6月 Divine Word College（アメリカ合衆国）卒業
- 1973年 5月 Catholic University of America（アメリカ合衆国）哲学科修士課程修了、同
6月 M. A.（Philosophy）取得
- 1974年 5月 Washington Theological Coalition（アメリカ合衆国）神学科修士課程修了、
同6月 M. A.（Theology）取得
- 1975年 6月 カトリック吉祥寺教会助任司祭（1982年4月まで）
- 1982年 4月 カトリック刈谷教会主任司祭（1985年4月まで）
- 1983年 4月 南山大学非常勤講師（1985年3月まで）
- 1985年 4月 カトリック信徒宣教師会指導司祭（1988年7月まで）
- 1988年 7月 神言修道会日本管区宣教学研究及び教育担当者（1995年5月まで）
- 1993年 7月 Birmingham University（イギリス）神学部博士課程修了、Ph. D.（Theology）
取得
- 1993年 9月 神言修道会アジア・太平洋ゾーン正義と平和コーディネーター（1995年7
月まで）
- 1994年 4月 カトリック南山教会助任司祭（1995年7月まで）
- 1994年 4月 南山大学非常勤講師（1995年7月まで）
- 1995年 7月 神言修道会ローマ総本部正義と平和コーディネーター（2001年2月まで）
- 2000年 4月 南山大学社会倫理研究所非常勤研究員（2003年9月まで）
- 2002年 3月 ロゴスセンター館長（2004年3月まで）
- 2002年 4月 南山短期大学非常勤講師（2004年3月まで）
- 2003年 10月 南山大学社会倫理研究所第一種研究員（2015年3月まで）
- 2003年 10月 南山大学総合政策学部総合政策学科助教授（2007年3月まで）
- 2005年 3月 神言修道会アジア・太平洋ゾーン正義と平和コーディネーター（2008年3
月まで）
- 2007年 4月 南山大学総合政策学部総合政策学科准教授（2008年3月まで）
- 2008年 4月 南山大学総合政策学部総合政策学科教授（2015年3月まで）
- 2015年 4月 南山大学社会倫理研究所客員研究員

学 会

宗教倫理学会

業 績

〈著書〉

1. “Reflection on a Few Hours in Smokey Mountain,” *Mission and Dialogue: Theory and Practice* (共著) Divine Word Publications, 249p., 1989年1月。
2. 『聖書がみる現代』(単著) ヨルダン社、187p., 1994年3月。
3. *Towards an Asian Theology of Mission*, (Leonardo Mercado との共編著) Divine Word Publications, 141p., 1994年7月。
4. “Possible Approaches and Strategies for Church NGOs,” *Seoul Forum on the Asian Economic Crisis and the Role of the Church: The IMF, Human Rights and the Church* (Jose Ramos-Horta, Martin Khor 他32名との共著) Pax Romana ICMICA/Woori Theological Institute, 312p., 1998年8月。
5. *A Church on the Threshold: Proceedings of the SEDOS Symposium to Accompany the Asian Synod* (共著単編) Rome: SEDOS Institute, 214p., 1998年12月。
6. 『福音と現代—宣教学の視点から』第一巻(単著) サンパウロ(南山大学学術叢書)、341p., 2005年3月。
7. 「平和をめざす経済—公正な分配と平等」『非暴力による平和への道—今こそ預言者としての役割』(共著) 日本カトリック司教協議会(社会司教委員会編)、68p., 2005年7月。
8. *Some Considerations Regarding Article 9 of the Japanese Constitution* (単著) Nanzan University Institute for Social Ethics, 21p., 2006年2月。
9. 『憲法第9条に関する—考察』(単著) 南山大学社会倫理研究所、20p., 2006年2月。
10. 『アジア太平洋の安全保障』(Michális Michael, Larry Marshall との共著) 南山大学社会倫理研究所、22p., 2006年3月。
11. 「人間の尊厳のために」『南山大学「人間の尊厳科目」開講十周年記念連続講演会講演集』(奥田太郎、丸山雅夫 他6名との共著)、南山大学、220p., 2006年3月。
12. “Religion, Science and Environment,” *Religion and Science in the Context of Chinese Culture* (Ted Peters, Leo Leeb 他6名との共著、Cham Tak-Kwang, Tsai Yi-Jia 他1名編) ATF Press, 196p., 2006年3月。
13. 「宗教・科学與環境倫理」『宗教與科学—中華文化脈絡觀點』(Ted Peters, Leo Leeb 他10名との共著) 輔仁大學出版社、254p., 2006年7月。(12. の論文の中国語訳)
14. 「憲法改正のディレンマ—日本平和憲法の考察」『多国間主義と同盟の狭間—岐路に立つ日本とオーストラリア』(ジョセフ・カミレーリとの編著、ジョセフ・カミレーリ、ニック・ビズリー 他10名との共著) 国際書院、305p., 2006年9月。

15. 「憲法九条と安全保障のジレンマ」『「時のしるし」を読み解き宗教の役割を考える』、(高橋哲哉、斎藤貴男との共著) 日本カトリック司教協議会 (社会司教委員会編)、85p、2007年5月。
16. “Questioning the Rationale for Changing Japan’s Peace Constitution,” *Asia-Pacific Geopolitics: Hegemony vs Human Security* (Joseph Camilleri, Larry Marshall 他1名との共編著) Edward Elgar Publishing, 247p、2007年6月。
17. 「九条改定と同盟の『ワナ』」『5大陸20人が語りつくす憲法9条』(共著) かがわ出版、206p、2007年8月。
18. *Sunkyo wa Pokum u Tochakhwa* (単著) Sung Paolo, 365 p、2008年6月。(6.の韓訳)
19. “History, Memory, and the Dialogue of Civilizations: The Case of North East Asia,” *Civilizational Dialogue and World Order: The Other Politics of Cultures, Religions, and Civilizations in International Relations* (共著、Michális S. Michael, Fabio Petito編) Palgrave Macmillan, 294p、2009年5月。
20. 「翻訳者前書き」および「用語について」『教会の社会教説綱要』(共著) カトリック司教協議会、537p、2009年6月。
21. *Promises and Pitfalls of Global Environmental Treaties* (Yusuke Honda, Mai Fujiiとの共著)、Nanzan University Institute for Social Ethics, 29p、2010年2月。
22. 『なぜ教会は社会問題にかかわるのかQ & A』(共著) カトリック中央協議会、2012年2月。
23. 『経済・農業・思想・環境—環境問題の期限を探る』(中山典子、松本哲人、他1名との共著) 南山大学社会倫理研究所、22p、2012年3月。
24. *Origins of the Environmental Crisis: A Pragmatic Revisitation of the Question* (単著) Nanzan University Institute for Social Ethics、12p、2013年6月。
25. 『産業革命と環境・資源—現代の環境問題の史的起源を探る—』(籠橋一輝、小沢佳史、他1名との共著) 南山大学社会倫理研究所、24p、2013年3月。
26. “Catholic Theology and Other Religions: A Revisitation of the Question,” Ross Fishburn, Michael Kelly, Christopher Monaghan and Peter Price ed., *Creating a Welcoming Space: Reflections on Church and Mission: Essays to Honour Larry Nemer SVD.* (共著) Morning Star Publishing, 2014.
27. *Responding to the Environmental Crisis* (Aran Martin, Kazuki Kagohashi 他4名との共著) Nanzan University Institute for Social Ethics、56p、2015年2月。

〈学術研究論文〉

1. “The Providence of God and the Creative Role of Man in Nicholas Berdyaev’s Philosophy of History” (単著) The Catholic University of America 修士論文、95p、1973年4月。
2. “The Role of Non-Christian Religions in a Christian View of History” (単著) Washington Theo-

- logical Coalition 修士論文、75p.、1973年8月。
3. “Mission and Ecology: an Exercise in Dialogue and Contextualisation” (単著) Birmingham University 博士論文、418p.、1993年6月。
 4. “Inculturation and Internationalization,” (単著) *The Japan Christian Review* 61, pp. 5-18、1995年11月。
 5. “Beyond Sin and Begging Pardon” (単著) *The Month*、第CCLXI巻第1599号第2新シリーズ第34巻第3号、pp. 108-113、2001年3月 (スペイン語訳: “Mas allá de pecado y pedir perdón,” *Spiritus* (Edición hispanoamericana), Año 42/1, No. 162, pp. 91-103.; フランス語訳: “Au-delà du péché et de la demande de pardon,” *Spiritus*, No. 162, pp. 83-94.)。
 6. 「グローバル化と補完性の原理」(単著)『社会と倫理』第13号、南山大学社会倫理研究所、pp. 189-200、2002年6月。
 7. 「発展途上国への融資とカトリックの利子に関する伝統」(単著)『社会と倫理』第14号、南山大学社会倫理研究所、pp. 100-111、2003年1月。
 8. “Religion, Science and Environment” (単著) *Pacifica*、第16巻第1号、Melbourne College of Divinity、pp. 67-88、2003年2月 (中国語訳「宗教、科学與環境」、『宗教與科学—中國文化脈絡觀點研討會論文集』台北: 輔仁大學出版社)。
 9. 「和解への道としての真実究明—被害者と加害者の対話の可能性」(単著)『日本カトリック神学会誌』第14号、pp. 47-78、2003年7月。
 10. “Can the Just War Tradition be Made to Work” (単著) *Interface: A Forum for Theology in the World*, Vol. 6 No. 2, Australian Theological Forum Inc., pp. 55-67、2003年10月。
 11. 「正当戦争 vs. 正義の戦争—キリスト教の正戦論の落とし穴」(単著)『宗教と倫理』第3号、宗教倫理学会、pp. 21-42、2003年12月。
 12. “Japan’s Peace Constitution and the Security Dilemma” (単著) *NANZAN REVIEW OF AMERICAN STUDIES*, vol. 28、南山大学アメリカ研究センター、pp. 13-30、2007年3月。
 13. 「人種主義と二十世紀の世界—オーストラリアの『盗まれた世代』の例」(単著)『社会と倫理』第21号、南山大学社会倫理研究所、pp. 63-76、2007年6月。
 14. 「キリスト教における対世俗の姿勢—カトリックの立場から」(単著)『宗教と倫理』第8号、宗教倫理学会、pp. 3-18、2008年10月。
 15. 「豪ブーマヌーマナ・ランドケア・グループの取り組み、実績、および問題意識」(単著)『社会と倫理』第24号、南山大学社会倫理研究所、pp. 63-82、2010年9月。
 16. 「温暖化懐疑論とIPCC疑惑に関する一考察」(単著)『社会と倫理』第24号、南山大学社会倫理研究所、pp. 149-180、2010年9月。
 17. 「温暖化対策の行き詰まりと環境問題への取り組み方」(単著)『社会と倫理』第26号、南山大学社会倫理研究所、pp. 49-69、2011年12月。
 18. 「教皇ベネディクト十六世回勅『真理に根差した愛』について」(単著)『Humanitas Cath-

- olica』、清泉女子大学・短期大学 カトリックセンター、pp. 79-96、2012年3月。
19. “Consensus Building Revisited: The Experience and Approach of Toshio Kuwako” (単著) La Trobe University Centre for Dialogue, Working Paper Series, 2012/2, May 2012.
 20. 「地域共同体・包括的取組・連携—境界を超えるランドケア」(単著) 『BIOSTORY』第17号、生き物文化誌学会、pp. 37-43、2012年7月。
 21. “Consensus building revisited: lessons from a Japanese experience” (単著) *Global Change, Peace & Security*, Vol. 24, No. 3, pp. 331-349, October 2012.